

## 令和2年度 第1回北海道 Society5.0 推進会議 開催概要

### 1 日 時

令和2年6月11日(木) 10:00 ~ 12:00

### 2 実施方法

Web 会議

### 3 出席者

別添「出席者名簿」のとおり

### 4 議 題

別添「次第」のとおり

### 5 議 事

#### (1) 議事1 本日の会議について

・事務局(北海道)から説明(資料3)

#### (2) 議事2 「北海道 ICT 利活用推進計画」と「北海道 Society5.0 構想」について

・事務局(北海道)から説明(資料4)

#### (3) 議事3 意見交換

・事務局(北海道)から説明(資料5・参考資料)

##### 【主な意見】

- 「北海道 Society5.0 構想」には、北海道の未来に向けて取り組むべきことがよくまとまった形で提言されている。この会議では社会のグランドデザインをどうするかということを議論していきたい。
- MaaS や自動運転といった技術は手段であって目的ではない。例えば、シームレス交通の実現のために重要となるのは、共通運賃や運行体制の整備など枠組みとなる公共交通ネットワークをどのようにするかといった仕組みづくりである。
- 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、テレワークなど ICT の活用が進んでいる。今後、データ量の拡大が見込まれるため、インフラの整備が重要となる。
- 新型コロナウイルスへの対応について、医師・看護師などの感染リスクを減らすために、機械による自動化やロボットの活用などが今後重要になる。
- 民間と行政ではスピード感が全く異なる。行政のデジタル化の推進が重要。
- スマート農業が進んでいる地域において、生産者が言っているのは、自分たちの意識を変えること。使うメリットを感じるとどんどん進む。
- 変える視点も重要だが、自然環境の保全といった「変わらない」ということも重要。
- ものづくりも全て自動化になるのではなく、匠の技を継承していくことが必要なものもある。ここに AR・VR・MR といったものを活用することも考えられる。
- SDGs の関係も取り入れていく必要がある。
- 今あることをデジタル化するのではなく、ICT を前提に仕組みを作らないと無駄が出る。

#### (4) 議事4 その他(今後の進め方について)

・事務局(北海道)から説明(資料6)